

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：宮城県気仙沼市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

架け橋期コーディネーター（兼幼児教育アドバイザー）の育成，架け橋期コーディネーター（兼幼児教育アドバイザー）による施設訪問，「幼保小中連携教育推進委員会」と「幼保小連携教育運営会議」の設置，「気仙沼市の架け橋期のカリキュラム（モデル）」の開発・実施・実践の定着，保育施設・幼児教育施設・小学校等の関係者への研修会実施，保育施設・幼児教育施設の公開保育の企画

【令和7年度における主な取組内容】

架け橋期コーディネーター（兼幼児教育アドバイザー）の派遣や育成，「幼保小中連携教育推進委員会」と「幼保小連携教育運営会議」の設置，「気仙沼市の架け橋期のカリキュラム（モデル）」の開発，保育施設・幼児教育施設・小学校等の関係者への研修会実施，保育施設・幼児教育施設の公開保育の企画

【取組内容の具体的な事例】

＜市内の施設への架け橋期コーディネーター（兼幼児教育アドバイザー）派遣＞

市内の保育・幼児教育施設において，架け橋期コーディネーター（兼幼児教育アドバイザー）が訪問し，保育参観を実施した。右の写真は，保育参観後に行った振り返りの様子である。このような振り返りを通じて施設の職員は，今後の保育において重視すべき点について，より理解を深めることができた。



＜幼保小連携教育運営会議＞

5月と2月に市内の保育・幼児教育施設の所属長と小学校長を対象に「幼保小連携教育運営会議」を行った。右下の写真は5月の会議の様子である。5月の会議では，宮城教育大学の教授による幼保小の円滑な接続に関する講話の後，小学校区ごとに交流計画や架け橋期の幼児・児童についての情報交換を行った。2月の会議では，今年度開発した「気仙沼市架け橋期のカリキュラム

（モデル）」について説明し，今後の接続の在り方について意見を交わした。所属長と校長が直接話をする事で，幼保小の円滑な接続を支える基盤を整えることができた。



令和 7 年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：宮城県石巻市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

幼児教育施設と小学校の交流は増えてきている。架け橋期のプログラムを作成する体制づくりのために、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの意義を知らせ、それぞれの施設に応じたものになるよう支援している。

【令和 7 年度における主な取組内容】

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ○幼児教育推進会議 | ○幼児教育施設・小学校巡回訪問 |
| ○幼保こ小合同研修会 | ○幼児教育施設園長・所長・小学校長懇談会 |
| ○幼児教育施設・小学校連携担当者研修会 | |

【取組内容の具体的な事例】

＜幼児教育推進会議＞

年に 3 回開催した。第 1 回（7 月）の報告事項は、県の幼児教育担当者研修会についてと幼児教育施設の訪問の様子についてであった。巡回訪問については、幼小の連携の観点から、5 歳児の保育を中心に参観した。また、アプローチカリキュラムの作成の様子について聞き取りを行った。協議事項は、令和 7 年度の幼児教育推進事業計画についてであった。幼保こ小の合同研修会は、昨年度同様 2 回とした。加えて幼児教育施設の園長・所長懇談会には、小学校長も参加できる体制をとり、懇談会が充実したものとなった。

第 2 回（10 月）には、石巻市幼児教育プラン（第 1 期 R7～R9）が完成し、その確認を行った。完成した幼児教育プランは、研修会の折に配付し、周知することができた。小学校へも校長会議の場で概略を説明し、配付した。併せて幼児教育推進事業の中間報告を行った。協議事項として、幼児教育施設から小学校への引継ぎ枠の検討を行った。これまで学校ごとに様式が様々であり、巡回訪問の際に様式の統一を願う意見が寄せられていた。入学に向けての幼保小連絡会では、統一した枠を使つての引継ぎ・情報交換が行われた。統一した枠を活用できることは好評であった。

第 3 回（2 月）は、令和 7 年度の幼児教育推進事業の報告が主となった。今年度から幼児教育施設と小学校の連携・交流がスムーズに進むように、連携担当者の研修会を開催した。幼児教育施設園長・所長・小学校長懇談会からの意見を生かし、開催することができたのは、何よりの成果であった。1 回のみの開催であったが有意義な時間にする事ができた。次年度は、2 回開催の予定である。協議事項として、令和 8 年度の幼児教育推進事業計画案について説明し、意見をいただいた。

<幼児教育施設・小学校巡回訪問>

石巻市幼児教育プランの推進機関の実施計画に基づき、幼児教育施設・小学校の状況の把握、小学校区別の組織づくり、架け橋期のカリキュラムの検討・開発についての活動を行ってきた。

○幼児教育施設訪問・・・４５回

- ・公立幼稚園、こども園の指導主事学校訪問の同行
- ・私立幼稚園、保育所、こども園訪問（５歳児在籍の認可施設）

○小学校訪問・・・延べ１５回

- ・指導主事学校訪問の同行（１年生の授業参観）
- ・授業研究会の参観
- ・幼児教育施設と小学校の交流の様子を参観

<幼保こ小合同研修会の様子>

８月、１０月と２回開催した。３名の講師の先生方のテーマは、連携・接続に関するものであった。講演の後のグループワークでの意見交流が好評で、各グループ活発な意見交流がなされていた。連携の大切さを改めて感じていたようであった。



<幼児教育施設園長・所長・小学校長懇談会の様子>

昨年度は、園長・所長のみの懇談会であったが、連携交流を更に進めるために、顔の見える懇談会とし、９月、１２月と２回開催した。小学校区ごとにグループを作り情報交換を経て、実際の交流につなげることができ、連携を深めることにつながった。



<幼児教育施設・小学校連携担当者研修会の様子>

園長・所長・小学校長懇談会での意見から、研修会が実現した。県の幼児教育担当の先生を講師に招き、円滑な接続について学ぶことができた。顔の見える交流ができ、具体的に交流の計画が進んだ施設も見られた。「遊び」は「学び」というキーワードが印象に残ったようである。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：秋田県にかほ市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

- ・年度初めに市内各園に架け橋コーディネーターを担う教育・保育アドバイザーが訪問し事業の説明。
- ・秋田県の職員および架け橋期コーディネーターを招き、架け橋期のカリキュラム研修会を開催。年長児担任と1年生担任対象の幼保小合同研修会を開催し、情報共有や子どもの姿について話し合った。
- ・就学前施設については、幼保小架け橋プログラムについて浸透し、公開保育など積極的に実施する園もでてきた。しかし、小学校との温度差があり、校長のみの参観がほとんどで対象職員の参観までに至っていない。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・継続的な就学前・小学校合同研修会の開催
- ・にかほ市カリキュラム開発会議の開催 ・架け橋期のカリキュラム研修会の実施
- ・幼保小連携通信「にかほっふ・すてっふ・じゃんぷ」の発行

【取組内容の具体的な事例】

＜にかほ市就学前・小学校合同研修会の様子＞

学区ごとに分かれ、子どもの姿や育ちのつながりについて話し合い、にかほ市版カリキュラムへ広げ協議していきました。研修を通して就学前から小学校への架け橋期における「育ちと学びをつなぐ」という視点の重要性を改めて実感したという感想が多く出された研修会でした。園と学校が子どもの姿や成長の過程を丁寧に共有し、互いの専門性を活かして関わることで、子どもが自分らしく学びや遊びに向かえるのだと感じ、特に就学前に育まれた資質、能力、主体性など途切れさせないための支援の工夫や関わり方など環境の構成が重要であると再認識した研修会でした。



＜架け橋プログラム推進担当者に学ぶ会の様子＞

県内の架け橋期コーディネーターの研修会をにかほ市で開催。園のお店屋さんごっこの行事に合わせ、保育参観を通して「遊び」への理解を語り合い、幼保小の相互理解を進めるための具体例などについて、他市町村の実施内容を情報共有し、実践へ向け検討することができました。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：秋田県大館市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

- ・市内全小学校区による架け橋期のカリキュラムに基づいた幼保小の連携・交流
- ・架け橋期のカリキュラムと連動したスタートカリキュラム・各教科年間指導計画の試行
- ・市主催の幼保小合同の研修会、ミニ公開保育の開催
- ・他市町村への成果の発信、県内架け橋コーディネーターへの公開

【令和7年度における主な取組内容】

- ・架け橋期のカリキュラムの実践・検証・改善
- ・全小学校区での保育体験、保育・授業の相互参観、合同の研究協議、架け橋会議
- ・市架け橋プログラム会議（年2回）
- ・家庭や地域への発信
- ・モデル地区への架け橋コーディネーターによる伴走型サポート

【取組内容の具体的な事例】

＜モデル地区交流会に係る協議の様子＞

小学校と園が事前の打ち合わせをもつことにより、内容の検討に加え、準備や当日の担当を役割分担したり、活動の計画シートを合同で作成したりして、双方が企画・指導の主体となっている。事後にも協議を設けることで、交流を通じた育ちの姿や、回を重ねることでの育ちの変容を幼保小の教職員で共有することができた。市保育アドバイザー（福祉部）、架け橋コーディネーター（教育委員会）がコーディネートしながら参加者の活発な意見を引き出している。



＜幼保小による交流会、保護者参観の様子＞

5歳児も1年生も主体的に参加する交流会となるよう単位を通した計画が立てられている。保護者が参観したことで、交流を通して育つ様子を知ってもらうことができ、架け橋プログラムの理解につながった。



＜横の連携～園と園の交流の様子＞

事業をきっかけに、同じ小学校区にある私立認定こども園、私立幼稚園、公立保育園が自主的に5歳児の交流活動を企画するなどの実践が広がっている。交流を重ねるたびに互いの保育の理解につながるとともに、園を越えて自小学校区の「目指す姿」や「共通の視点」に向けた意識の統一につながり、架け橋カリキュラムを共に実践していくという協働性が高まっている。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：秋田県東成瀬村

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

令和6年度より架け橋期のコーディネーター兼アドバイザー（こども政策アドバイザー）を配置し、アドバイザーの園内研修への派遣や、策定した架け橋期のカリキュラムを基にした相互参観と協議等を行っている。村内に保小が1施設ずつであり、渡り廊下で棟続きとなっている地の利を生かし、カリキュラムにかかる部分の参観を、場を捉えて行うことができるのが特色となっている。

【令和7年度における主な取組内容】

架け橋期のカリキュラム開発会議の設置、架け橋期のコーディネーター等の配置・派遣、園と小学校の保育・授業の相互参観と研究協議による保小合同研修会、コーディネーター作成による架け橋期の教育・保育の実践についての広報誌を園・小学校の教職員及び保護者に配布しての啓発活動等を行っている。

【取組内容の具体的な事例】

＜保小合同研修会の様子＞

なるせ保育園にて、保育園・小学校教職員による保育参観と協議を行った。架け橋期のカリキュラムを基に参観を行い、「言葉で伝え合う力」について、今の時期の5歳児の育ちが、学校でのどの学びにつながっているか等の協議を行った。夏休み期間中の開催は、多くの小学校教職員が参加でき、相互理解を深めることができた。



＜小1授業参観の様子＞

東成瀬小学校1年生の授業参観を行い、「子どもたちの資質・能力を育む保小の円滑な接続について」をテーマに協議を行った。園での活動や学びが授業の中でどう発揮されていたかなど意見を交わし、育ちの連続性について確認することができた。



＜保小連携だよりの配布＞

アドバイザー作成による、なるせ保育園・東成瀬小学校の教職員向けの保小連携だより「かけはしなるせ」（不定期、およそ月に1度）、保育園・小学校の保護者向けの「かけはしなるせワイド」（不定期、およそ2か月に1度）を配布し、保小連携事業の情報提供等を行い、啓発活動を行っている。教職員向けにはカリキュラムを基にした視点、保護者向けは、育ちの連続性をわかりやすく伝える内容となっている。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：秋田県男鹿市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

- ・ 架け橋プログラム推進委員会の立ち上げ。
- ・ 【男鹿市版】 架け橋期のカリキュラムの内容説明・確認。
- ・ 就学前・小学校等地区別合同研修会開催。公開保育・架け橋期のカリキュラム作成に向けた各学区の協議。研修会以降からの各学区の架け橋期のカリキュラム作成。
- ・ 教育委員会に教育・保育アドバイザーの他、保育士の指導主事を配置。小・中学校の指導主事との連携による、乳幼児期の遊びを通した学びに関する認識の共有化。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・ 架け橋プログラム推進委員を中心に、架け橋期のカリキュラム作成・実施への取組を後押しする。
- ・ 幼保小連絡協議会や架け橋通信にて、架け橋期のカリキュラム策定・交流会の進め方など伝え、現状確認・課題など話合えるようにする。
- ・ 1年生と5歳児が英語を通して交流する活動「Let`s enjoy English～ALTといっしょにえいごであそぼ～」を設け、各学区の要望に応じて実施する。
- ・ 園小を対象に、架け橋プログラムに関する通信を配布する。
- ・ 園小・園の保護者を対象に、乳幼児期の遊びと育ちを取り上げた通信を配信する。

【取組内容の具体的な事例】

＜架け橋プログラム推進委員会の様子＞

学区版架け橋期のカリキュラム作成に向けて、進め方や何を大事にするかなど具体的内容を参考にしてもらうため、モデル学区での架け橋期のカリキュラム作成の状況、先行事例や取組を全学区で共有した。



＜「Let`s enjoy English」1年生と5歳児交流会の様子＞

小学校での開催。前週、体験入学で交流があったこともあり、初めのうちは緊張していた5歳児もすぐに打ち解けていた。1年生が活動に応じて5歳児に声を掛けリードし、英語を通した活動を楽しんだ。



＜幼保小連絡協議会の様子＞

新1年生の情報交換に加え、次年度の架け橋期のカリキュラム作成・交流会についての日程確認をした。交流会の内容についての考えも出し合い、新年度改めて具体的内容の検討に入るための準備を整えた。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：秋田県能代市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

教育・保育の質の向上を図るため幼児教育と小学校教育の担当部署の連携強化を図り、架け橋プログラムを推進した。幼児教育・保育アドバイザー兼架け橋期のコーディネーターを2名に増員。研修会の実施、架け橋期のカリキュラム作成等を通して学び合う体制を構築した。担当者の相互理解は徐々に進んできたが、組織内の共有、子どもの育ちと学びの教育方法の改善が課題である。

【令和7年度における主な取組内容】

- 1 架け橋期のカリキュラム開発会議等の設置
- 2 架け橋期のコーディネーターの配置
- 3 幼保小の架け橋プログラムの普及・啓発

【取組内容の具体的な事例】

＜架け橋期のカリキュラム開発会議の様子＞

- ・ 年3回実施している学校教育課主催「幼保小連携推進協議会」と「かけはし会議」を兼ねて実施。
 - ・ 1回目…管理職対象 モデル地区の実践発表、県指導主事による講評、事業説明とブロックごとの協議
 - ・ 2回目…作成担当者対象 架け橋カリキュラム作成と中間報告、県行政説明
 - ・ 3回目…年長・小1担任 連携交流の振り返り、情報交換、カリキュラムのまとめ
- 1回目の「架け橋会議」で管理職の共通理解を得た上でスタートし、見通しをもって実施。小学校区ごとに主体的に進めていくことが可能となった。



＜小学校区ごとの「架け橋委員会」への支援の様子＞

- ・ 小学校区（7ブロック）ごとに独自の名前を付けた「架け橋委員会」を開催。
 - ・ 年間計画作成…「事業計画」「3年計画」「連携一覧表」
- 事業の共通理解のため説明資料や手引きを作成し、年度初め全ての施設を訪問。主体的な取組になるように支援した。



＜小学校区の「架け橋交流会」実施の様子＞

- ・ 7月実施の就学前・小学校合同研修会で秋の交流会を共同で企画し、生活科の活動を具体的に考える場となった。いくつかのブロックが主体的に実施した。
- 幼保小の共同企画による交流の成果が見え、今後の架け橋プログラム推進の具体的な在り方を提供した。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：秋田県大仙市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

架け橋期のカリキュラム開発会議、園小合同研修会での先進モデル校のカリキュラム作成に関する成果と課題の発表、園小訪問時の普及・啓発活動等により、7年度は市内全小学校区の架け橋期のカリキュラムが完成した。今後は課題である全職員の理解度を高め、実効性のあるカリキュラムの実践及び評価・改善に向けて取り組んでいきたい。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・架け橋期のカリキュラム開発会議の開催（6月・2月の年2回）
- ・架け橋期の保育・授業参観を通した、園小相互が学び合う体制づくりの更なる推進
- ・架け橋期のカリキュラムに関する、「就学前・小学校合同研修会」の開催（8月）
- ・園小連携だよりの発行及び園小訪問時における架け橋プログラムの普及と啓発活動

【取組内容の具体的な事例】

＜架け橋期のカリキュラム開発会議 6月・2月＞

6月は、各小学校区のカリキュラム作成の進捗状況についての報告と先進モデル校の成果と課題についての発表と協議を行った。2月は、各小学校区のカリキュラム作成後の成果と課題についての報告と今後のカリキュラムに関する評価と改善についての提案と協議を行った。特に次年度につながる評価と改善についての有意義な協議をすることができた。



＜就学前・小学校合同研修会 8月＞

園小の教職員関係者107名が参集し、架け橋期のカリキュラムの研修を行った。第1部では先進モデル校より、カリキュラムの作成・実践・成果・課題・改善について実践発表があった。第2部ではその発表を受けて、小学校区ごとに実際にカリキュラムの作成作業を行った。この研修会が契機となりカリキュラム作成が一層進むこととなった。



＜架け橋期の保育・授業参観を通した

園小相互が学び合う体制づくりの更なる推進＞

園小相互の保育・授業参観及び協議を通して、子どもの育ちと学びがつながる研修が頻繁に行われている。園で実践している「ふりかえり」の時間を参観した1年生の担任が、すぐに自身の学級でも同じ様にふりかえりをするなど、園から小への滑らかな接続のための取り組みが日々行われている。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した 幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：秋田県横手市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

本市の特色は、数年前から市の働きかけにより、各小学校区ごとに接続・連携の年間計画がきちんと作成されていたことから、モデル校区を決めることなく、全ての小学校区が同歩調で架け橋プログラムの取組を進めることができたことである。また架け橋期のカリキュラムは、両者の対話の中で共通の視点に基づいたキーワードで作成し、そこを幼保小それぞれの教育課程や指導計画に落とし込んでいくことを重視している。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・横手市幼小接続推進協議会（架け橋期のカリキュラム開発会議）開催
- ・横手市幼小合同研修会開催によるカリキュラム開発
- ・各小学校区の幼小連携委員会を活用したカリキュラムの作成及び見直し
- ・職員の体験事業実施による互いの理解
- ・授業・保育参観及び協議参加を通じた互いの理解
- ・交流活動への支援
- ・広報紙や研修機会を通しての架け橋プログラムの普及・啓発

【取組内容の具体的な事例】

＜横手市幼小接続推進協議会の様子＞

カリキュラム開発会議として6月と2月に開催し、委員が所属する各小学校区の開発・実施状況について意見をいただいたり、情報共有を行ったりした。各関係機関がより連携しながら架け橋期の子どもたちを見守る体制が整ってきた。



＜横手市幼小合同研修会の様子＞

8月に開催された研修会では、これまで話し合われた各小学校区の「幼小それぞれの子どもの姿」をもとに、より踏み込んだカリキュラムについての話し合いが行われた。たたき台を見直し、より具体化したカリキュラムの作成が図られ、今年度版のカリキュラムが完成した。



＜連携だより「よこてのめんこ」の様子＞

毎月発行される連携だよりには、各小学校区での架け橋プログラム実践の紹介や会議、研修会の情報が載せられ、共有が図られた。小・中学校、幼児教育施設に配布するのみでなく、地域交流センターや子育て支援センター等でも共有し、地域や保護者への理解推進に努めた。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：秋田県潟上市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

- ・完成した架け橋期のカリキュラムの本格実施
- ・長年の取組である職員間・子ども間交流の更なる充実と持続可能な体制づくり
- ・架け橋期のコーディネーターによる園支援及び幼保小の相互理解、連携、協働の推進

【令和7年度における主な取組内容】

- ・架け橋期のカリキュラムの実践、評価・改善
- ・相互理解のための職場体験、保育体験、相互保育・授業参観及び協議
- ・子ども同士の交流の実施
- ・架け橋プログラムの家庭・地域への周知

【取組内容の具体的な事】

＜架け橋期のカリキュラムの実践、評価・改善に係る学校区
の合同会議＞

- ・交流会や相互参観後に協議会を設け、架け橋期のカリキュラムを活用して子どもの育ちと支援を振り返ることができた。
- ・年末と年度末に学校区ごとに架け橋合同会議を実施し、架け橋期のカリキュラムの見直しと次年度のカリキュラム作成までの計画を示した。



＜相互理解のための保育体験＞

- ・小学校職員が連携園で保育を体験し、遊びを通した学びについて園職員と協議した。
- ・小学校からは1年生以外の担任、管理職の参加があり、全校体制による架け橋プログラムの取組の一助となった。



＜子ども同士の交流＞

- ・年度当初の架け橋期のカリキュラム担当者会で、互惠性のある交流について実践紹介し、交流の意義や目的を確認した。回を重ねるごとに、子どもの主体性が発揮される場になった。
- ・計画的な交流会の他、計画にはない気軽な交流が行われるようになった。



＜架け橋プログラムの家庭・地域への周知＞

- ・市広報を通じて、学校区ごとの取組を5回に渡って紹介した。
- ・各園、小学校においては通信を発行したり、学校評議員会や学校運営協議会、PTAなどで議題に取り上げたり、話題にしたりするようになってきた。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：秋田県北秋田市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

令和6年度には幼児教育推進体制を構築し、学校区ごとの取組を強化した。学校と就学前施設との相互理解は十分とはいえず、架け橋期カリキュラムの開発までには至っていない。学校と就学前施設、就学前施設同士の既存の交流活動等を基盤とし、架け橋コーディネーター及び教育・保育アドバイザーが支援しながら、「幼保小架け橋プログラム」を促進、モデル地区におけるカリキュラムを開発、幼児期及び幼保小接続期の教育質的向上を図る。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・市主催による幼保小連携に係る会議等の開催（幼保小架け橋委員会、幼保小連携会議、合同研修会）
- ・幼保小架け橋プログラムの啓発（年長児公開保育、学校区による幼保小架け橋プログラムの実践など）
- ・架け橋期のカリキュラム開発（市共通版及びモデル学校区版の策定）

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保小架け橋委員会＞

架け橋期のカリキュラム策定の取組の一つである。4月と2月に開催した。4月は、市共通版架け橋期カリキュラムについて協議した。2月は、モデル学校区における架け橋期カリキュラム策定等について協議した。

協議を基に、市共通版カリキュラムが策定された。



＜幼保小連携会議＞

これも架け橋期のカリキュラム策定の取組の一つである。幼保小架け橋委員会と同日で、管理職を対象に開催した。4月に学校区ごとの年間活動計画を立案、2月には年間の成果と課題を整理し、次年度の年間活動計画を立案した。年度始めの立案により、学校区の取組が計画的に進められている。



＜幼保小合同研修会＞

年長児担任や1年生担任などを対象に、合同授業保育について講話と演習を行った。この研修を活用して、学校区で合同授業保育を行った学校区がある。今後も、実態に合わせた研修テーマを設定していきたい。



<年長児公開保育>

市内の公立園、私立園で年長児公開保育を行った。小学校の教職員も参加し、保育を参観後に、就学前施設職員と協議した。参加した教職員は、保育士の関わりや環境構成への関心についての感想が多かった。就学前施設職員は、教育と保育の違いについての理解、子どもの育ちを教職員と共有できた喜びを感じていた。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：秋田県仙北市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

架け橋期コーディネーター兼教育・保育アドバイザーとして1名配置、学区ごとに架け橋期カリキュラムの策定や実施、保育や授業公開に参加を促し、午後の協議で子どもの育ちを話合う。子どもの交流では、双方のねらいを明確にし、相互理解を深めている。

【令和7年度における主な取組内容】

架け橋期コーディネーター兼教育・保育アドバイザーによる園の支援、専門性の向上のための研修の充実、小学校教育との円滑な接続に向けた研修の充実 県の連携体制を活用した教育・保育アドバイザーの育成に取り組んだ。

【取組内容の具体的な事例】 ○成果

R7.4.25<第1回幼保小連携委員会>

人事異動での職員の配置に関わらず、毎年継続していく体制や管理職で構成することで、職員全体に浸透していくことができるように委員の構成を工夫し組織的な体制にした。

小学校（教頭）園（副園長、または主任）事務局：教育委員会、こども家庭センター。

○カリキュラム作成の確認や園と小学校の交流を明確にできた。

R7.7.4<ひのきないこども園公開保育：午後保育を語る>

他園からも入り公開保育を実施する。午後の協議には、桧木内小学校からも参加し子どもの姿、保育者の援助や環境の構成について話合われた。

○子ども達から言葉が豊富に出ていた。

○イメージを持つことができるように、写真や作ったものを残し視覚化している環境の構成が良かった。等具体的な子どもの姿の語り合いから環境の構成が大事なことを再確認できた。

R7.8.1<保育体験：角館小学校—角館西保育園>

中学校から小学校へ勤務になったという4年生担任が保育体験を行った。プールを怖がっていた子どもがいたが、保育者の声掛けで怖そうだけど一緒にやってみようとする変化の瞬間が見られて大変参考になった。保育者と子どもと関係性ができていた。子ども達がやりたいという意欲を持った時に、子ども達をどのように見取って援助していくかが大事だと思った。という貴重な感想を聞くことができた。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：福島県須賀川市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

本市では、幼児教育を担当する「こども課」が教育委員会内に位置づけられ、小学校を所管する「学校教育課」及び「市教育研修センター」と連携を図りながら、幼児教育・保育の研修及び幼保小連携を図っているところである。

令和4年度からは「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」を活用して、幼児教育の質の向上や幼保小の円滑な連携のため、幼児教育アドバイザーや指導主事による各施設への指導訪問や研修会の開催・研修内容の充実を図ってきたところである。今年度からは、「本事業」を活用して、「架け橋プログラム」を策定するとともに、より一層の幼保小連携を推進し、「架け橋期」の教育の質的向上を図っている

【令和7年度における主な取組内容】

- すかがわ架け橋プログラムの策定
- 架け橋期のカリキュラム開発会議の設置
- 架け橋期に係る情報の収集（幼保・小教職員・保護者アンケートの実施及び分析）
- 架け橋期コーディネーターの配置及び活用

【取組内容の具体的な事例】

＜架け橋期のカリキュラム開発会議の様子＞

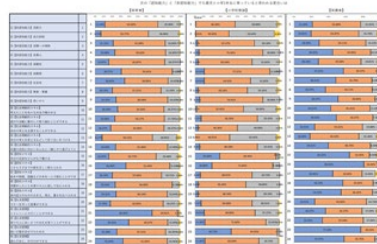
今年度から架け橋期のカリキュラム開発への支援をいただくために「架け橋期のカリキュラム開発会議」を設置した。公立・私立幼保職員や小学校教員、学識経験者、市教育委員会担当課長など14名の委員を委嘱し、今年度は4回の会議を開催した。本市の幼保小連携の現状や市内幼保小教職員アンケートの分析、架け橋期のカリキュラム「モデルカリキュラム」等について話し合い、本市の架け橋期の教育の充実に対してさまざまなご意見をいただいた。



架け橋期のカリキュラム開発会議

＜幼保小の架け橋プログラム促進事業に係るアンケートの実施＞

市内の5歳児と小学校1年生の児童等に関わる保護者や幼保小教職員を対象に、児童等の育ちの様子や育成させたい資質・能力等を把握し、幼保小の架け橋プログラム促進の参考とするために、年度当初にアンケート調査を実施した。多くの回答をいただいたことで、児童の育ちの様子や保育者や小学校教職員、保護者のこどもを捉える認識や育成したい資質・能力の違いなどを把握することができた。



架け橋プログラムに関するアンケート結果

＜架け橋期コーディネーターの活用の様子＞

今年度、元大学教授や元認定こども園長、元小学校長 3 名を架け橋期コーディネーターに委嘱し、各幼保施設や各小学校の要請訪問や各種研修会への派遣を行い、指導助言等を行っている。今年度は 2 月末現在でのべ 60 回の活用を行った。



幼稚園園内研修への指導助言



保育実践セミナーでの指導助言

＜各種研修会の様子＞

こども課では、幼児教育の質の向上や幼保小連携の推進のため、学校教育課や市教育研修センターと連携を図りながら、各種研修会を開催している。

* 幼保小連携セミナー

先生方が比較的参加しやすい夏休みに、幼保・小の先生方を対象に「幼保小連携セミナー」を開催し、市内外から 40 名の参加者があった。幼保・小の先生方が少人数のグループで幼保小連携について話し合ったが、それぞれの現状やこどもたちのとらえ方について本音で話し合うことができ参加者から好評を得た。



幼保・小の先生方がカリキュラムについて話し合う

* 幼保小連携研修会

12 月に幼保・小の幼保小連携担当者である副園長・主任と教頭・教務等が集まって、今年度の幼保小連携を振り返りながら、次年度の幼保小連携について話し合った。前年度よりも幼保小連携について話が深まるとともに、今年度末に市教委より提示される「モデルカリキュラム」に対して期待する意見が多くあった。



幼保・小の連携担当者が話し合う

＜架け橋期のカリキュラム「モデルカリキュラム」の作成＞

幼保・小の先生方からなるカリキュラム作成部員の先生方の協力により、「モデルカリキュラム」の原案を作成し、「架け橋期のカリキュラム開発会議」で審議・承認していただき、今年度末に各幼保施設や小学校等に提示することができた。カリキュラムの見やすさや親しみやすさを重視するため 1 枚に収めるとともに、細かい文書表記ではなく、キーワードや行事名で表記し、令和 8 年度の試行、令和 9 年度作成・実施を指示した。

すかがわ架け橋期のカリキュラム「モデルカリキュラム」

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：福島県郡山市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

本市では、幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小学校の円滑な接続を図るため、平成21年度から幼・保・小連携推進事業を実施している。本事業は、幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小学校の教職員と一緒に研修するもので、合同研修会を年に5回、授業と保育の相互参観を年14回実施している。

【令和7年度における主な取組内容】

架け橋期のカリキュラムの周知や策定に向けて以下の内容に取り組んだ。

- ・【郡山市版】架け橋カリキュラム（共通の視点）の作成
- ・【郡山市版】「幼保小の架け橋プログラム」ガイドブックの作成

【取組内容の具体的な事例】

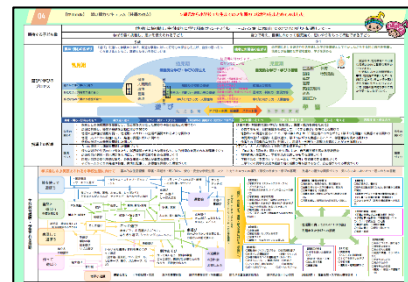
令和7年度は架け橋プログラム策定検討委員会を5回開催し、以下の内容について取り組んだ。



【委員会の様子】

①【郡山市版】架け橋カリキュラム（共通の視点）の作成

令和6年度に協議した「共通の視点」に基づき、架け橋カリキュラムを作成するために、架け橋プログラムにおける本市としての基本理念等をまとめた。



②【郡山市版】「幼保小の架け橋プログラム」ガイドブックの作成

令和8年度に計画しているオンライン説明会や架け橋カリキュラム協議会の開催に向けて、幼稚園、保育所（園）、認定こども園、小学校に周知し、有効に活用するためのガイドブックを作成した。



【ガイドブックの一部】

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：茨城県牛久市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

幼保小の接続カリキュラムの開発にあたって、基本的な考え方を幼児教育施設と小学校管理職、4・5歳児担当保育者、小学校1年担任で共有し、カリキュラムの開発を開始した。「教育課程の接続」という発想ではなく、「これまでの実践に共通する学びを融合した保育、教育実践の改善」という視点で開発し、円滑な幼保小の接続を目指した。

【令和7年度における主な取組内容】

保幼小合同連絡会における理論研修、幼児教育アドバイザーによる訪問及び助言・指導、巡回相談員による相談、4・5歳児担当者と低学年担当者による相互授業参観、架け橋カリキュラム作成会議兼4・5歳児担当者研修によるカリキュラム開発と育てたい子供の姿の共有、各小学校区における保幼小連絡協議会の開催等

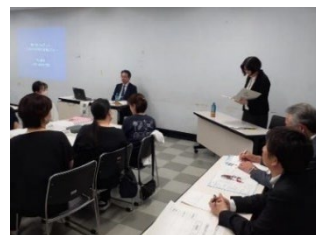
【取組内容の具体的な事例】

市幼児教育センター事業

＜保幼小合同連絡会＞

○架け橋期の接続カリキュラムの開発に向けた理論研修

茨城大学教育学部との連携（新井 英靖 教授による講演）による、幼児教育施設・小・義務教育学校の管理職・保育者・教員向けに、研修を企画して実施した。



研修テーマ：「架け橋プログラム—保幼小の接続の意義と方法—」

＜市幼児教育アドバイザーの取組＞（学校と幼児教育施設の相互理解）

教育委員会に幼児教育アドバイザーとして幼保小接続担当アドバイザー1名と幼児教育担当アドバイザー2名を任用。研修の一元化、幼児教育施設の定期的訪問による幼児の見取り、保育の質の向上に向けた懇談（園長・主任・担任）、公開保育（参観・協議）を通じた保育の質の向上を目指した。

○地区幼保小連携事業の実施

8校の市立小・義務教育学校で学校区のグループを編成し、地区幼保小連絡会として公開保育、授業参観、幼児と児童の交流等の活動の計画・実施を依頼。多くの学年との交流機会の設定等の工夫や「これまでどおり」とらわれない取組が見られた。交流については、相互参観の拡充や多様な交流活動の実施など、今後活動の持ち方について検討を進めていきたい。また、学校区による差への対応も課題である。

○小学校計画訪問及び幼児教育施設保育参観の相互参観を通じた相互理解促進

幼保小接続担当アドバイザーが月1回小学校を訪問。低学年の授業参観、授業に関する情報提供、幼児教育との接続を意識した授業づくり等について協議した。協議は

放課後やweb会議システムを活用して実施。教職員の負担減を考慮した。さらに、計画訪問時には低学年部会を設定し、授業に関する協議や文部科学省動画等の紹介を通して、求められている架け橋期の取組に関しての情報共有を図った。

○4・5歳児担当者研修の実施

4・5歳児担当者研修（以下4・5歳研）を年間5回実施し、一斉指導型保育から「遊び」を通しての学び、幼児主体の保育に関する動画視聴、意見交換、講演やワークショップを企画運営した。毎回20人程が参加し、活発に情報交換を行った。

第4回（R7.11.14）東京家政大学 小里 直道先生によるワークショップ

第5回（R8.1.22）文科動画「幼児教育は何のため？」視聴

＜幼児教育施設巡回相談＞

10名の専門家に巡回相談員を委嘱・任命し、巡回相談を各園5回ずつ実施。幼児の様子を見取り、保育者や保護者への個別相談と専門的な見地からの助言を行った。保育者のアプローチの工夫や子育ての中での困り感の軽減等を図るための助言を行い、継続的な支援へとつなげた。年間105回の巡回相談のほか、年に2回のサポートチーム会議を通して相談員同士の情報交換やケース会議も実施した。

＜茨城大学連携事業 園同行・カンファレンス参加＞

希望園・学校に新井先生、大学院生が訪問し、気になるこどもへの対応に関して、見取りとケース会議を実施した。保育者や教員の研修の場の一つとなっている。

（第一幼稚園・つつじが丘保育園・牛久ふれあい保育園）

架け橋カリキュラム開発会議

＜架け橋カリキュラム作成会議＞ 別紙参照「令和7年度 幼児教育センター（連携接続・保育の質向上）に関する取り組み（記録）」

＜架け橋カリキュラム作成会議兼4・5歳担当者研修＞

架け橋カリキュラム作成に関する会議を実施している。

幼児教育施設や学校の負担増とならないように4・5歳研の一部を活用し「カリキュラム作成会議」を実施。保育者と学校教職員が共に協議できる場としている。会議



では、4・5歳児担当保育者と小学校1年担任が「育てたい子どもの姿」を考案し、共有した。また、領域ごとに架け橋カリキュラムを開発し、実践を進めている。

- ・「絵本の読み聞かせ」と「国語の読解」
- ・「環境（幼児）」と「生活科・理科（小学生）」
- ・「数・計算する遊び（幼児）」と「文章題（小学生）」
- ・「話合い活動（幼児）」と「協働的な学び（小学生）」

小学校区ごとに幼児期の学びと児童期の学びを相互で確認し、共通する部分を見つけて、自然な流れで架け橋カリキュラムの作成が進められている。「学び方」の違いを意識して、幼保小の特徴を融合した実践へと改善していく手立てを検討した。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：茨城県鹿嶋市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

- ・市独自に架け橋期カリキュラムを作成し、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校が連携を深めていくことを推進している。
- ・幼児教育にこれまで携わり、知識や経験豊富な人材を「幼児教育アドバイザー」として配置している。
- ・公私立問わず、幼稚園教諭や保育士等への相談支援、指導助言の専門家として、現場で抱えている課題解決に向けてサポートする役割を担っている。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・ 幼保小接続の検討（架け橋カリキュラムの作成） ・ 市内幼児教育施設への訪問
- ・ 園長会・学校長会等での事業説明と研修 ・ 各種研修会の開催・参加 ・ 教育相談

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保小接続の検討（架け橋カリキュラムの作成）＞

 幼保小接続推進委員会を実施し、幼保小接続などに関する意見交換や中学校区ごとの架け橋カリキュラムの作成を行った。

 また、教育内容の接続や学びの連続性などの理解を深めるため、意見交換や模擬授業等を行い、幼児教育施設職員と学校職員で共通理解、情報共有を図ることができた。



＜幼保の連携＞

 公立幼稚園にて市内の幼保小施設関係者を対象（※希望者）に交流事業を実施した。現場の職員だけでなく、幼児教育アドバイザーや教育委員会行政職員も参加することで互いの実情を把握し、幼保小の質向上に関する相談・支援等の場が確保された。

＜公立保幼教職員研修・公立保幼初任者研修＞

 外部講師を招き、「幼児教育指導法」などをテーマに職員研修を実施。また、初任者には幼児教育アドバイザー等が講師となり内部での研修を実施。外部研修に参加することができない職員も現場経験が豊富な職員から指導や支援を受けることができ、職員間で公平にスキルアップを図ることができた。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した 幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：茨城県土浦市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

本市では、令和元年度より、積極的に幼保小の接続・連携推進に取り組んできた。庁内の関係部局間で連携を図る「就学前教育連絡調整会議」や、幼児教育施設職員、学校職員、学識経験者等で協議する「保幼小連携協議会」での話し合い、保幼小連携のための合同研修会、両施設への担当者訪問等を実施している。今年度配置された2名の架け橋期のコーディネータを通して、幼保小間の主体的な接続・連携が着実に推進されている。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・ 保幼小接続合同研修会での「架け橋カリキュラム」の周知及び地区ごとの協議
- ・ 架け橋期のコーディネータによる幼児教育施設及び小学校訪問を通しての理解促進
- ・ 土浦市保幼小連携協議会における「保幼小架け橋プログラム促進事業」推進の計画についての協議及び「土浦市架け橋カリキュラム（市全体版）」の検討・承認

【取組内容の具体的な事例】

＜保幼小接続のための合同研修会＞

- 参加者 市内小学校（16校/16校）
市内幼児教育施設（28園/35園）

○研修内容

- ・ 茨城県教育庁生涯学習課作成研修動画視聴
「架け橋カリキュラムの作成・実施に向けて」
- ・ 中学校区ごとのグループワーク
架け橋カリキュラム作成に向けた、
中学校区ごとの「目指す子どもの姿」
の検討



＜土浦市保幼小連携協議会の様子＞

○協議会委員

学識経験者（大学教授）、小学校職員
公立こども園職員、私立幼稚園・こども園職員
私立保育園職員、保護者・民生委員・その他代表

○協議事項

- ・ 土浦市の保幼小連携推進事業の現在と今後の進め方
「架け橋プログラム」の推進について
- ・ 土浦市架け橋カリキュラム（市全体版）の検討・承認

中学校区を目指す子どもの姿一覧 R7.8.8	
一中学区	一人一人が輝く主人公 ～手を取り合い育む∞の可能性～
二中学区	思いやりをもってチャレンジするまなべっ子 ～みんなといっしょに～
三中学区	心身ともにたくましく元気な子 ～笑顔輝く元気な子～
四中学区	自分を大事にすることからはじめよう
五中学区	みんな大好き ～にこにこ元気に進んでがんばる子～
六中学区	自分も大事、みんなも大事 ～笑顔でのびのび学べる子～
都和中 学区	友達と助け合いながら、進んで学びに向かう子 ～心と体も にこにこ元気よく～
新治義務 学区	笑顔いっぱい友達と助け合える子 ～みんなで支え合う新治コミュニティ～



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：群馬県榛東村

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

榛東村では、幼児教育施設での育ちをふまえて小学校教育を円滑に推進できるよう、スタートカリキュラムを実施している。それにより、小学校入学時における児童の安心感を醸成することはできているが、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を念頭においた指導を実施することや、環境を通して行う教育を小学校教育に課題がある。

【令和7年度における主な取組内容】

架け橋期のコーディネーターの派遣

スタートカリキュラムの実施

榛東村幼保こ小連携協議会の開催（村内幼児教育施設（公立幼稚園、私立こども園、保育園、村内小学校教職員）による保育参観及び保育研究会の実施、架け橋期のプログラムに関する研修会の実施）

【取組内容の具体的な事例】

＜架け橋期のコーディネーターによる小学校訪問の様子＞

令和7年4月に架け橋期のコーディネーターと、教育委員会担当指導主事が各小学校を訪問し、スタートカリキュラムを参観した。参観後に協議する中で、現行のスタートカリキュラムの成果や今後の課題について共有することができた。



＜架け橋期のコーディネーターによる園訪問の様子＞

村内私立認定こども園から依頼を受け、園訪問及び保育参観を実施した。園の保育方針や、実際に行われている保育内容について共有することができた。また、小学校への滑らかな接続に向けた協議を行うことができた。



＜幼保こ小連携協議会における保育研究会の様子＞

村内幼児教育施設関係者並びに村内小学校関係者による保育研究会を実施した。保育研究会では、「子どもたちが遊びから学んでいること」を視点にすることで、幼児教育施設での遊びと、小学校で行われる教科教育との関連について考えることができた。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：埼玉県さいたま市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

小学校入学当初に架け橋期のコーディネーターが小学校へ訪問。
幼児教育アドバイザー等の就学前施設への派遣、保育者小学校等体験研修の実施。
架け橋期のカリキュラムの協働作成やカリキュラムモデルの改訂、市内小学校104校
がカリキュラム作成に協力。市内就学前施設からのカリキュラムの提出。
市全域での公開保育研修会の実施（全10区12施設）。架け橋プログラム推進会議設
置運営規程の施行。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・ 幼保小連携教育研修会の実施。（小学校104校中99校が参加。保育者121名参加）
- ・ 保育者資質向上研修会「Let's Go 小学校」の開催（特別支援学級と通常学級を授業参観）
- ・ 「架け橋期のカリキュラム」協働作成の更新（モデルカリキュラムの改訂）
- ・ 架け橋プログラム推進会議（準備会合）の実施。架け橋プログラム推進会議の設置運
営規程の施行。幼保小連携促進事業の計画。（入学当初の小学校へ保育者が授業参観）
- ・ 保育者小学校等体験研修の実施
（小学校87校特別支援学校2校の協力、256園の就学前施設から274名の保育者が参加）

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保小連携教育研修会の様子＞

教育委員会と子ども未来局との共催で実施した研修会に小学校教員99名、市内保育
者が121名が参加した。小学校の教員による幼保小連携事例の実践発表、関係園の保
育者から連携交流後の子どもの姿についてエピソード記録を発表した。相互の理解を深
めるとともに連携・交流の実践意欲を高めることにつながった。その後、関係小学校と
関係園でグループワークを行い、顔の見える関係づくりにつながった。アンケート設問
「研修会の内容を理解できた」について99%の肯定的回答があった。

＜保育者資質向上研修会の様子＞

保育者が保護者の就学相談に適切に応じることができるよう、小学校の通常学級と
特別支援学級の様子が参観できる研修の機会を設けた。参観中、また参観後には教育委
員会の指導主事、開催校の教頭に質疑応答ができるようにした。また、通級指導教室の
指導の様子を動画視聴し、保育者が通級指導等の実際の様子について理解を深められ
た。

<保育者小学校等体験研修の実施>

市内小学校87校と特別支援学校2校を研修先として、保育者が2日間小学校で体験を通して学ぶ機会を設けた。今年度は、過去最高の参加者の市内就学前施設256園から、274名の保育者が参加した。体験が終了した後は、体験研修の振り返り及び小学校教員との情報交換を行った。「小学校生活の具体的な取組を知ることができた」と事後アンケートに回答している保育者が94%を占めているため、保育者の小学校教育に対する理解を深める結果が把握できた。



<公開保育研修会の開催>

市内全10区において、計12園の就学前施設が公開保育を実施した。関係する小学校及び近隣の就学前施設の保育者が参加し、当日の保育の場面を撮影し、写真を使って可視化しながら、他の参加者と意見交換を行った。就学前施設のあそびの中に、小学校の個別最適な学びへとつながる子どもの姿を参加者が見出すことができていたことが感想等から伺えた。



<架け橋期のコーディネーターの小学校訪問>

入学当初の小学校に保育者及び架け橋期のコーディネーターが訪問して、スタートカリキュラムの様子を参観した。子どもの姿を通して、小学校教員と保育者とが対話することができた。令和7年度は小学校5校で実施した。このような取組を架け橋プログラム推進会議（準備会合）で報告・協議することから、令和8年度の入学当初の幼保小連携促進事業を計画することにつながった。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：千葉県佐倉市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

佐倉市では、これまでも幼保小の交流はあったものの、架け橋カリキュラム等の作成はなく、各施設が独自に交流を行っていたため、頻度や内容は各施設によって大きく異なっていた。また、交流を市が主導するような動きもなかった。取組については、各施設の負担を減らしつつ、効果的かつ持続的な内容になるように意識している。

【令和7年度における主な取組内容】

検討会の立ち上げ及び開催。県との連携。連携協定締結施設（いくつかの小学校と幼稚園等で締結している）で架け橋カリキュラムの作成実施。佐倉市幼保小架け橋プログラム推進事業指針の作成。幼保小合同研修会の開催。佐倉市架け橋カリキュラム作成の手引き（案）の作成。

【取組内容の具体的な事例】

＜第1回検討会（令和7年5月23日）の様子＞

- ・内容は会長及び副会長の選任、検討会の運営について、架け橋プログラムについて。
- ・検討会の目的、佐倉市の現状、今後の取組等について意見を交わした。今後に向けてスタートを切ることができた。



＜幼保小合同研修会（令和8年1月22日）の様子＞

- ・市内全ての幼保小が集まり研修会を行った。
- ・内容は架け橋プログラムについての講話（教授、県）、今後の取組について、各幼保小での情報交換。
- ・全施設に向けて説明を行うことができた。各幼保小での情報交換は、気軽に話し合うことができた各施設から好評だった。



＜第2回検討会（令和8年3月6日）の様子＞

- ・内容は佐倉市架け橋カリキュラム作成の手引き（案）について、幼保小の組み合わせについて、次年度の取組について。
- ・各幼保小の組み合わせを決定した。次年度から全ての施設で架け橋カリキュラムを作成するに当たって、方向性の確認や意見交換を行った。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：千葉県流山市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

子育て世帯が多く流入し、保育施設が急増していることから、学校教育部・子ども家庭部・健康福祉部での連携体制を築き、幼児教育・保育の質の向上にむけた議論を重ねてきた。また、幼保小の学びをつなげる「架け橋期のカリキュラム」の作成を通して、園・小学校それぞれの教育の質を高めていくことを目指していく。

【令和7年度における主な取組内容】

- 幼保小・関係機関が共に学ぶ「幼保小合同研修」及び「幼児教育希望研修」の開催
- 幼保小の教職員が交流する「幼保小連携の日」・見学会の開催（市内全小学校区）
- 教育・保育内容、方法、環境づくりを支援する「幼児教育アドバイザー」の派遣
- 教職員・保護者に架け橋期の教育の重要性を啓発する資料の作成

【取組内容の具体的な事例】

＜こどもをまんやかに、様々な職種が共に学ぶ研修会＞

幼保小合同研修会では、幼保小の職員が、主体的な姿を大切にした保育・教育を学んだ。また、庁内連携を深め、こどもたちに関係する様々な職種が共に学ぶ「幼児教育希望研修」を開催した。



＜顔の見える関係を築く「幼保小連携の日」＞

市内全小学校で、幼保小の職員同士が意見交換を行う「幼保小連携の日」を開催した。様々な施設の取組を知ることで、自園・自校の取組を振り返るきっかけになった。また、施設類型をこえて、地域のこどもたちをともに育てていこうという思いが高まった。



＜小学校のすべての教職員・保護者とも共通理解を図る＞

「幼保小連携の日」を実施し、多くの小学校では、幼児教育アドバイザーと共にスタートカリキュラムの見直しに着手した。幼保小連携について1年生を担当する職員だけではなく、全職員での共通理解が必要だという考えが広まり、校内研修が多く実施された。また、新年度に向けて、入学説明会で保護者にも説明した。これらの好事例は、架け橋期カリキュラム推進会議での協議を経て、「架け橋期カリキュラム作成の手引き」として配付した。また、保護者に対しても、架け橋期の教育への理解を促進するため、「もうすぐいちねんせい」を作成し、周知した。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：千葉県浦安市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

浦安市学校教育推進計画に基づき、園小中連携・一貫教育の推進を図るため、中学校区の特色を生かした園・小・中連携教育の実践を進めている。「園・小・中連携の日」や「園小連携学びをつなぐ教育実践講座」を継続実施している。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・ 幼保小合同の研修会の実施
- ・ 浦安市就学前「保育・教育」指針 いきいき☆浦安っ子の改訂（架け橋期のカリキュラムの素案作成）
- ・ 「浦安市園小連携5歳児の学びのカリキュラム・スタートカリキュラム、及び架け橋期のカリキュラム」のリーフレットの作成
- ・ 「浦安っ子の育ちと学びをつなぐ虹の架け橋～園小の円滑な接続のために～」の動画の制作

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保小合同の研修会の様子＞

「園小連携学びをつなぐ教育実践講座」や「幼児教育実践講座」「園長研修会（校長会研修会合同）」等の研修会で園小（中）の教職員が同じ場で共に学ぶことで、各中学区の実態に合わせた特色のある一貫した連携教育の実現につなげている。



＜指針改訂やリーフレットについて＞

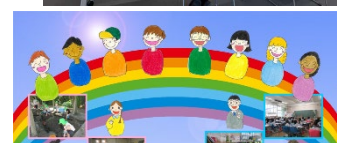
浦安市就学前「保育・教育」指針の第4回目の改訂の中で、園小の教職員で「架け橋期のカリキュラム」の素案を作成した。

既存の5歳児の学びのカリキュラム・スタートカリキュラムに「架け橋期のカリキュラム」を追加し、カリキュラムの違いや作成について理解し活用できるように、リーフレットにまとめた。



＜「浦安っ子の育ちと学びをつなぐ虹の架け橋～園小の円滑な接続のために～」の動画の制作について＞

市内私立園と連携し「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の解説動画を作成し、市内全就学前施設と全小中学校に活用促進の依頼をした。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：東京都世田谷区

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

※ 幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等について、4行程度で簡単に記載願います。

記載例：架け橋期のコーディネーターや幼児教育アドバイザー等の派遣や育成、架け橋期のカリキュラムの策定や実施、研修や公開授業・保育の実施に関する現状や課題 など

世田谷区では中学校区内の幼稚園、保育園、小学校、中学校で構成される「学び舎」という仕組みがあり、この学び舎を活用し「園、校における架け橋期の教育の充実」というテーマでモデル研究を行っている。研究にあたっては、架け橋期のコーディネーターである「幼保小連携活動アドバイザー」を派遣し、取組みのテーマや内容、進め方について支援する体制を確保している。

「幼保小連携アドバイザー」を学識経験者として招き、架け橋期の取組みの手引きとなる「せたがや架け橋プログラム」の策定を目的とした「世田谷版アプローチ・スタートカリキュラム改訂委員会」を開催している。

世田谷区乳幼児教育支援センターでは架け橋期の取組み推進にあたって、小学校側の理解を得ることが重要なポイントであると考えており、モデル研究の成果発表の場に小学校教員を招待するなど小学校への理解促進へ繋げていく。

【令和7年度における主な取組内容】

※ 令和7年度の主な取組内容について、4行程度で簡単に記載願います。（主な取組の項目等を羅列していただく形で結構です。）

「園、校における架け橋期の教育の充実」というテーマによるモデル研究の実施、
「幼保小連携活動アドバイザー」の派遣、幼保小の保育士・教職員が参加する「幼保小接続推進研修」の実施、「世田谷版アプローチ・スタートカリキュラム改訂委員会」の開催、区内の教育・保育施設の代表者を集めた「乳幼児教育・保育関係者連絡会」の開催

【取組内容の具体的な事例】

※ 【令和7年度における主な取組内容】のうち、具体的な事例について写真やコメント等により紹介願います。

＜モデル研究、幼保小連携活動アドバイザー派遣の様子＞

2 学び舎(2校・3園)でモデル研究を行い、計3回幼保小連携アドバイザーを派遣し

た。

モデル研究は2年計画で、今年度は最終年度として取り組んだ。

一つの学び舎では、「子ども同士の関わりの中で生き生きとできる子ども」という主題で研究に取り組んだ。幼児教育における環境構成を小学校教育にも活かす授業づくりをめざし、研究授業を幼稚園教諭や保育士に公開し、振り返りながら架け橋期の取組みについて語り合った。

もう一つの学び舎では、架け橋期のカリキュラム作成を中心に研究に取り組んだ。カリキュラムの作成をとおして、教員同士が互いの見学後に意見を交換したり、保育・授業づくりのための情報共有をしたりすることで、互いの教育についてより知ることや活かし合うことができた。

<幼保小接続推進研修の様子>

「就学前の教育と小学校教育の接続期（架け橋期）における幼児・児童の育ちを支えるための連携・接続について学ぶ」ことを目的として幼保小接続推進研修を実施した。昨年度も就学前施設を対象に同様のテーマで研修を実施したが、今年度は区立小学校も各校1名悉皆研修とし、学び舎内でグループワークを行うことで交流などの具体的な取組みを考える場とすることもできた。

<世田谷版アプローチ・スタートカリキュラム改訂委員会の様子>

昨年度から、「せたがや架け橋プログラム」の策定に向けて作業部会で内容について話し合い、検討委員会で報告・意見聴取という流れで作業を進めてきた。作業部会にはモデル研究に取り組んでいる学び舎の教員や保育士、区内の公私立の就学前教育・保育施設から部会員をつのり、様々な施設種別で広く使われる手引きの作成を目指した。今年度は「せたがや架け橋プログラム」の案を作成し、来年度に開催する改訂委員会で策定を予定している。

<乳幼児教育・保育関係者連絡会の様子>

学識経験者、公私立幼稚園・保育園、公立小中学校、区関連部署の管理職等を委員として、連絡会を1回開催した。各施設種別それぞれの立場から学び舎の活動状況や課題について話があり、保・幼・小・中の連携のあり方に関する意見交換が行われた。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：東京都日野市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

教育部と子ども部を横断するPTを設置し、指導主事をPTの構成員に加えている。2名の幼保小連携コーディネーターを配置し、幼保小の巡回支援、情報発信等を行っている。その際、令和6年度に作製したパンフレットを活用。架け橋期をテーマとした公、民、幼、保、小の合同研修会を実施。今後往還型研修を取り入れる予定。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・幼保小連携コーディネーターによる巡回支援（架け橋期の学びに関する参観や指導、幼保小の交流の促進、幼保の保護者会で就学についての講演など）
- ・PTによる取組（公民幼保小合同の研修会の開催、コーディネーターの巡回支援のバックアップなど）

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保小連携コーディネーターによる巡回支援の様子＞

幼保小を巡回しながら、アドバイザーの実体験をもとに接続に関する助言、課題の聞き取りなどを実施。また、幼稚園や保育園の運動会や発表会の行事日程を集約し、各小学校に共有し、参観を促すなど、園小間の交流促進を図ってきた。



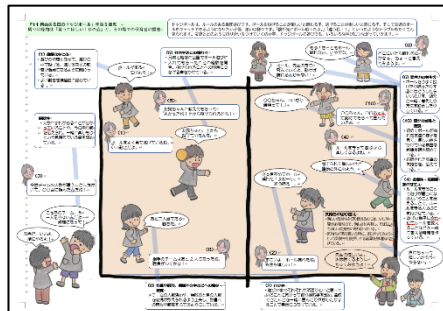
＜公民幼保小合同の研修会の様子＞

市内小学校、公民幼稚園（認定こども園含む）、保育園が集まり、合同の研修会を実施。テーマ【幼児教育と小学校教育双方に求められる「個別最適な学びと共同的な学び」—架け橋プログラム時代に求められる教育・保育の課題とは—】



＜幼保小連携パンフレット＞

このパンフレットでは、幼児期の経験が小学校の生活や学習につながっていくことを、事例などを交えて紹介しており、幼稚園、保育園、認定こども園、小学校の職員だけでなく、保護者へも理解を促す内容となっている。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：東京都八王子市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

本市においては、平成28年から「保・幼・小連携の日」を実施し、各小学校区における小学校と幼児教育・保育施設をグループ化し、接続期の課題解決に向けた協議や情報交換を行っている。架け橋期のカリキュラム作成については、このグループを活用し、すべての小学校、幼児教育・保育施設において行ったところである。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・保・幼・小子育て連絡協議会及び同ブロック会議の開催
- ・すくてくシート研修会
- ・保・幼・小子育て連絡協議会講演会の開催
- ・架け橋期のカリキュラムの作成

【取組内容の具体的な事例】

＜保・幼・小子育て連絡協議会ブロック会議の様子＞

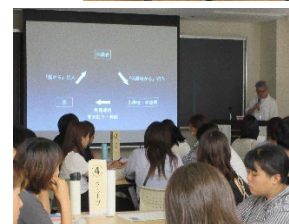
市域を5分割し、それぞれのブロックにおいて、小学校、幼児教育・保育施設の教職員参加のもと、ブロック会議を開催した。

その中で、保・幼・小連携の日の成果発表や、グループワークによって接続期の課題の共有や、架け橋期のカリキュラム作成に係る情報交換を行った。



＜すくてくシート研修会の様子＞

本市においては、学校生活において配慮が必要な子の情報を、保護者・園の協働により「すくてくシート」に記載し、各小学校に送付している。この活用方法等に付いて、小学校、幼児教育・保育施設の教職員合同による研修会を開催した。



＜保・幼・小子育て連絡協議会講演会の様子＞

小学校、幼児教育・保育施設の教職員を対象に講演会を開催した。令和7年度については、東海大学児童教育学部：寶來生志子准教授に登壇いただき、「みんなで伴走して育てよう八王子の子どもたち～架け橋期の教育を考える～」をテーマに講演いただいた。



＜架け橋期のカリキュラムの作成の様子＞

各小学校区における小学校と幼児教育・保育施設をグループ化し、市作成のカリキュラム様式を用いて、令和7年度については生活科をテーマに、架け橋期のカリキュラムを作成した。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：東京都国立市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

国立市幼児教育センターは、乳幼児から高齢者までが日常的に訪れる多世代交流施設の中に設置されている。市が設立した社会福祉法人が、市の子ども家庭部・教育委員会と緊密に連携しつつ、現場の改善につながる往還型研修の実施や園内研修における講師派遣等に加え、広く市民が子どもの育ちについて学び合う講座を開催し、まちぐるみで幼児教育を推進する体制を構築する取組を行っている。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育アドバイザーが幼児教育の専門家として、市内の小学校単位で編成した幼保小連携会議に参加し、幼保小の連携を推進するサポートを行った。
- ・ 幼保小連携における研究協力地区としての指定期間は令和5年度で終了したが、継続して幼保小の専門職で学びあう往還型研修や、一般市民も参加できるオンラインセミナーを実施した。

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保小連携推進事業の様子＞

市子ども家庭部及び市教育委員会と連携し、全3回の幼保小連携推進研修を実施した。

各自チャレンジテーマを設定し、実践した内容を持ち寄り学び合う「往還型研修」を行い、最終発表の際には園長や校長にも参加していただき、市全体として幼保小連携推進に取り組んでいる。



＜幼児教育アドバイザーの園及び学校訪問の様子＞

市内の小学校を核として編成した8グループで実施している幼保小連携会議に幼児教育アドバイザーが参加し、乳幼児期の環境や関わりで育まれた資質・能力を活かした学校教育のあり方に関してアドバイスを実施した。

また、保育参観や授業参観に参加し、お互いの見方のポイント解説や、上手くいっている事例の紹介等を行い、お互いの理解を深め、連携を推進するサポートを行った。

＜オンラインセミナーの様子＞

保育者・教員だけでなく一般市民も参加できるオンラインセミナーとして『「人間学」としての「保育学」』を全3回実施し、延べ350名が受講した。

子育て・子育て環境について、専門職だけでなくまちぐるみで考える機会を創設した。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：東京都杉並区

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

- ・ 幼保小連携に関する専門職の区立小学校訪問による、スタートカリキュラム実施状況の確認
- ・ 幼保小連携担当者連絡協議会を年4回実施（うち2回は研修）
- ・ 連携活動について、私立保育施設の増加による区立小学校の負担増が課題

【令和7年度における主な取組内容】

- ・ 杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラムの改定検討会の設置及び検討
- ・ 幼保小連携担当者連絡協議会（年4回）の開催。区立小学校及び区立子供園を悉皆とし、うち2回は幼保小連携教育研修を実施

【取組内容の具体的な事例】

＜杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム改定検討会の様子＞

年3回実施。教育委員会事務局職員を中心に、学識経験者や私立幼稚園・私立保育施設の代表者も含め、架け橋期の子どもに関わる多様な大人が集まり、現行のカリキュラム・プログラムの改定について検討を進めることができた。



＜幼保小連携担当者連絡協議会（研修）の様子＞

年4回実施している協議会のうち、2回はオンライン研修を開催。小学校と子供園は悉皆とし、オンライン環境がない施設は会場で受講できるようにした。「幼保小連携の課題と推進に向けた在り方を考える」「未来に生きる子どもの学びの充実のために」をテーマとし、子どもの姿や、保育・教育の方法の背後にある意図を考え、幼稚園・保育所と小学校が共に対話を続けることの重要性について、啓発を推進した。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：東京都渋谷区

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

- シブヤ幼保小架け橋プログラム検討会議の設置
- 架け橋期のカリキュラムの策定や実施
- 小学校、幼稚園、保育園、認定こども園の交流、協働した遊び、学び
→モデルとなる小学校区の取組創出、周知へ

【令和7年度における主な取組内容】

- シブヤ幼保小架け橋プログラム検討会議の設置
- 幼保小の架け橋プログラムの普及・啓発等
 - ・ワーキンググループによる架け橋期カリキュラムのフォーマット作成
 - ・幼児教育研修会／就学前オープンスクール／渋谷区立幼稚園・小学校教育研究会 等

【取組内容の具体的な事例】

＜シブヤ幼保小架け橋プログラム検討会議の様子＞

- ・学識経験者を招き、保育園所管課と連携し会議を2回行った。
- ・本区のめざす子ども像、架け橋期カリキュラムの決定を行った。



＜ワーキンググループの様子＞

（区立小学校1校、区立幼稚園1園、区立保育園1園。私立幼稚園1園）

- ・第1回は、管理職が一堂に会し、各校園の実態や地域の特色について話し合い、校区のめざす子ども像を決定した。



- ・第2回目以降は、各校園の担当者が作成した「思いつき遊び子ども」の姿のドキュメンテーションを持ちよった。その姿を紹介しあう中で各園校の特色や違いを知ったり、地域の教育資源をもとに共通となる教材を作成し共有したりして、カリキュラムのフォーマットの作成を推進した。

＜幼児教育研修会の様子＞

- ・区立小学校、区立幼稚園、区立保育園、私立幼稚園、私立保育園、認定こども園の担当者が参加。
- ・小学校の生活科の授業や、幼稚園の公開保育を参観、協議をした。
- ・小学校区ごとに分かれ、交流計画を立て実施した。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した 幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：神奈川県横浜市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

昭和58年からの幼保小連携事業と、大規模都市ならではの多様な実践の蓄積を基盤に、架け橋プログラムを展開し、「今あるカリキュラムを架け橋期の視点で見直し、運営、改善し続ける」という方針で、架け橋期のカリキュラム作成に取り組んでいる。行政主催研修、市内小グループでの研修では、架け橋期の子どもの育ちを中心に置いて実践共有・討議し、園校の保育・教育活動に生かすことを目的に行っている。連携の時間の創出、属人化の解消、保育士・教諭の観の転換、保護者の理解促進が課題である。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・教育委員会事務局と連携した架け橋プログラムの確かな普及（架け橋期のカリキュラムの作成・架け橋期コーディネーター派遣・育成）
- ・取組のPR
- ・おもてなしでない「日常的」で「互恵性のある」交流の推進

【取組内容の具体的な事例】

＜架け橋期コーディネーター派遣の様子＞

推進地区を中心に、4人の架け橋期コーディネーターを派遣。カリキュラム作成・活用への支援、幼児教育施設と小学校との連携・調整、研修会講師・研修会運営支援等を通して、双方の質的向上と、管理職・教職員の育成を図った。具体的には、授業や保育を継続して参観し、取組の価値づけ、子どもの変容等を伝えながら助言を行った。参観後はリターン資料を作成し、保育・教育活動の振り返りと改善への反映、保育士・教諭の意欲向上、連携園校同士の対話の機会創出、事務局内での共有等に活用した。特にリターン資料によって、各推進地区が取組の現在地を確認することができ、カリキュラムの見直しやさらなる工夫への意欲、推進地区や園校としての成長の実感につながった。

＜PR活動の様子＞

コーディネーターの計画的な派遣により、架け橋期の育ちや学びの具体の姿、保育士・教諭の適切な援助、地域性を踏まえた架け橋期のカリキュラムの具体について実践事例を収集。好事例を「架け橋プログラムだより」において発信したり、研修資料・動画へ活用したりすることができ、市内における実践の手がかりとなった。また、シンボルとなるキャラクターを作成。関係部局や保育士・教諭による投票で、名称「はまっこかけるん」に決定した。

リターン資料



はまっこかけるん



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：新潟県聖籠町

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

幼児教育センターに架け橋期コーディネーター兼幼児教育アドバイザーを3名配置し、町立・私立園への訪問研修を実施するとともに、副園長を小学校に1名架け橋期コーディネーターとして配置して架け橋プログラムの推進体制を整備してきた。授業・保育参観やカリキュラム検討委員会を通して園・小の学びの連続性への理解を深め、たより発行やフォーラム開催により保護者や教諭への周知を図ってきた。

【令和7年度における主な取組内容】

架け橋期コーディネーター兼幼児教育アドバイザーによる全園訪問研修及びオンライン研修会の実施。園・小・中合同研修会や園・小教諭による授業・保育参観、情報交換会、カリキュラム検討委員会の実施。副園長を架け橋期コーディネーターとして小学校に1名配置。架け橋だより・幼児教育センターだよりの発行、子育てフォーラム等の開催。

【取組内容の具体的な事例】

＜架け橋期コーディネーター兼幼児教育アドバイザーによる町立・私立全園への訪問研修（161回）とオンライン研修会（9回）の実施＞

町立幼稚園1園、私立認定こども園4園、私立保育園1園を対象に、各園へ毎月2回の訪問研修を実施した。午前保育を撮影し、午後にその映像を基に担任と振り返りを行い、指導・助言を通して保育者の指導力向上と架け橋プログラムへの理解の促進を図った。さらに、全園をつなぐ学年別オンライン研修会を年9回実施し、学年ごとの情報交換を通して園間の横のつながりを深めた。



動画を撮影するコーディネーター

＜大学教授を指導者に招いた「5歳児架け橋期研究保育協議会」の開催＞

【町内の園・小・中学校教諭、近隣3市の園・小学校教諭、教育委員会担当者が参加】

5歳児の遊びの様子を「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から捉え、小学校の学びや活動へのつながりについて協議を行った。参加した中学校教諭からは、「一から育てるのではなく、これまでに育ってきた力をさらに伸ばすことの大切さを再認識できたことも大きな学びだった」等の声が聞かれ、発達の連続性を踏まえた指導の重要性について理解の深化がうかがえた。（参加者：町内31名、近隣市20名）



小グループで話合う参加者

＜町立幼稚園の副園長を架け橋期コーディネーターとして小学校に異動配置＞

副園長が架け橋期コーディネーターとして日常的に1年生教室に入り、子どもたちに寄り添いながら園と小学校における学びの連続性や共通して大切にしている教師の関わり等について見取り、1年生担任や管理職と共有した。また、町内の2小学校の1年生の授業を定期的に参観し、見取った内容を参観記録として整理するとともに、学期に1回1年生担任や管理職と情報交換を行い、架け橋期についての理解を深めた。

＜園・小学校教諭による新１年生授業参観、５歳児保育参観、情報交換会の実施＞

園及び小学校の教諭が、新１年生の授業と５歳児の保育を相互に参観し、その後、参観内容について意見交換を行った。新１年生の授業参観後の情報交換では、架け橋メッセージを基に子どもたちの成長の様子を共有するとともに、架け橋メッセージの保育・授業への活用について協議を行い、園と小学校における学びの連続性への理解を深めることができた。



新１年生授業参観後の情報交換

＜架け橋プログラム周知のために「架け橋だより」の発行（年３回）＞

架け橋プログラムの意義や町の架け橋プログラムの取組の周知を図るために「架け橋だより」を年３回発行し、町内の３～５歳児・１年生の全保護者に配付した。また、０～２歳児・２～６年生の保護者、園・小学校教諭にもメールで配信し、幼児期から小学校の接続において大切な内容について周知を図った。



実際の架け橋だより

＜架け橋プログラムの周知のために「幼児教育センターだより」の発行（年１３回）＞

町のオンライン研修会や合同研修会の協議内容・指導の要点を整理し、「幼児教育センターだより」にまとめ、各園教諭に配付して保育に活用した。



写真を基に話合う園小の教諭

＜架け橋期カリキュラム検討委員会の年２回開催＞

各園及び小学校の５歳児担任、幼児部主幹、１年生担任を委員として任命した。町の架け橋期に期待する子ども像である「友達と目的を持ち、一人一人が力を発揮し、自信をもって主体的に行動する」姿が見られる写真を持ち寄り、小学校区ごとに小グループで、遊びと学びのつながりや共通して大切にする教師の関わりについて意見交換を行った。参加者からは「遊び＝学び」という考えのもと、架け橋期における学びの連続性を再確認することができた等の声が聞かれ、授業改善に向けた意識の向上がうかがえた。



可視化した模造紙シート

＜架け橋期子育てフォーラムの開催＞

教諭及び保護者を対象に、幼児教育センターの取組や子どもへの肯定的な声かけについて講話を行うとともに、その後、グループワークを実施した。参加した保護者からは「子どもを見る視点が広がり、心が柔軟になった」等の感想が聞かれ、子どもへの関わり方について理解を深める様子が見られた。



架け橋期子育てフォーラム

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：富山県滑川市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

※ 幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等について、4行程度で簡単に記載願います。

架け橋期コーディネーターによる巡回研修及び2回の幼小合同研修を実施し、幼小において互いの課題などを共有し、架け橋期のカリキュラムの更新を行った。

【令和7年度における主な取組内容】

※ 令和7年度の主な取組内容について、4行程度で簡単に記載願います。（主な取組の項目等を羅列していただく形で結構です。）

【巡回研修】年度当初に小学校7校、認定こども園等15施設を小学校区ごとに分け巡回研修を行い、1年生の教室などの視察をした。

【合同研修】小学校7校、認定こども園等15施設が一堂に会する研修を2回行った。2回目は年度末に行い1年間の課題を共有した。

【取組内容の具体的な事例】

※ 【令和7年度における主な取組内容】のうち、具体的な事例について写真やコメント等により紹介願います。

＜第1回合同研修の様子＞

第1回は、令和7年度における今後の交流のことなどについてのグループワークを行い、架け橋プログラムの更新について協議した、実際に幼小で顔を合わせての研修であったため、今後の交流がよりやりやすくなったなどの意見を頂いた。



＜第2回合同研修の様子＞

第2回は、令和7年度における交流事例について情報についてのグループワークを行い、来年度の交流について協議した。事例の共有をしたことで、次年度に交流内容の改善に役立つなどの意見を頂いた。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：富山県魚津市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

幼児教育接続スーパーバイザーによる研修、
架け橋期のコーディネーターによる園・学校訪問
各園、各学校での接続体制づくり（行事予定・年間計画・園だより・学校便りの共有、
保育者と教員の関係づくり等）

【令和7年度における主な取組内容】

- ・市主催の合同研修会、学校教員の保育体験
- ・架け橋期カリキュラム作成に向けて、スタートカリキュラム、架け橋プログラムの実施状況について他地域から情報収集
- ・相互参観、公開保育（授業）事後研修、交流学习、行事交流等

【取組内容の具体的な事例】

＜市主催の合同研修会の様子＞

受講者は、幼児教育と小学校教育の接続の重要性を理解することができた。各学校・各園での実践に生かそうとする取組が始まっている。（教室の環境整備、要請訪問研、学習参観、園児と児童の交流活動）



＜保育体験の様子＞

学校の教員が幼児教育に触れる機会を作った。保育の様子や幼児の姿からの学び（幼児の発達状況への理解、保育士の園児への関わり方、保育の環境構成等）が多くあった。また、互いを知ることの大切さを感じていた。



＜交流学习、行事交流の様子＞

各学校、各園で、管理職主導で進められており、幼小接続に対する職員の意識は高まってきている。教員と保育士が顔を合わせる機会が増えたことにより、話しやすい雰囲気が高まってきている。

公開保育（授業）事後研修



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：石川県加賀市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

幼保小接続に関する課題を明確化するため、架け橋期コーディネーターを配置し幼保小連携推進協議会の企画・運営を行った。また、幼保小合同研修会を開催し、保育現場と小学校が互いの取り組みを共有し実践を通じた対話を重ねた。幼児教育アドバイザーを保育園に派遣。職員との対話を通して保育・教育内容や環境改善について助言を行った。

【令和7年度における主な取組内容】

幼保小連携推進協議会 3回

幼保小合同研修会 2回

小学校の授業公開

保育園訪問

【取組内容の具体的な事例】

＜第1回幼保小連携推進協議の様子＞

令和7年7月25日 15:00～16:30

内容 自己紹介、今年度の方針、取組み
第1回合同研修会について

成果 今年度方針の共通理解
課題の確認



＜第1回合同研修会の様子＞

令和7年8月7日 14:00～16:30

内容 「生活科の授業を作ってみよう」
～環境デザインと子どもの姿から考える～

成果 互いの「専門性の違い」をヒントにする関係性が
芽生えた



＜保育園訪問の様子＞

内容 保育園を訪問し、保育現場の抱える課題について
保育士との対話を通して助言を行う。

成果 子どもの姿をよくみるようになった。
園内での対話の習慣ができた。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：福井県越前市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

令和6年4月に開設した越前市乳幼児教育・保育支援センターと市学校教育課が協働し、公私立・園種を越えた交流促進と質の向上に取り組んでいる。センターに配置した幼小接続コーディネーター（元教員）が、園と小学校をつなぐ情報整理・好事例紹介を行うことで、市全体での接続期支援の仕組みづくりが前進している。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・幼小接続コーディネーターと幼児教育アドバイザーが共に市内の園および小学校を訪問。乳幼児期・児童期の学びの理解促進、子ども同士の交流の工夫などを助言した。
- ・幼保小代表者と行政で構成する市幼小連携推進会議を開催し、接続期の課題や方向性について協議した。

【取組内容の具体的な事例】

＜公開保育や園研修等を通じた園の質向上の取組＞

- ・幼児教育アドバイザーおよび幼小接続コーディネーターが訪問支援を実施。
- ・公私立、園種を越えた公開保育の実施が広がり、小学校教員の参加も増加した。園と学校が互いの子どもの姿や学びの特徴を理解する機会となった。
- ・園内研修では「小学校就学後の学び」をテーマにセンターが講師を担当し、幼児教育と初等教育の接続を一層意識した学びの認識共有が進んだ。
- ・園と小学校が互いの学びの特性を理解する場面が増えて不安の軽減につながりつつある一方、情報共有の手法については、より分かりやすい仕組みづくりが必要と感じた。



＜幼小連携推進会議による共通理解の促進＞

- ・本会議は、当市における「幼小架け橋カリキュラム」の推進に向け、関係者が連携し、実効性のある接続方策を検討する場として開催している。今年度は次の取組を行った。
- ・架け橋期プログラムの現状と課題の共有
学識経験者を含め、各校区の取組状況を整理し、園と小学校の双方から好事例や課題を出し合い、市全体としての方向性を確認した。
- ・幼保小の年間取組の整理（「共につくる架け橋カリキュラム研修」の位置付け）
園と小学校が、子どもの姿を出発点にカリキュラムを共に考える重要な研修（市学校

教育課主催）として、各校区の年間の架け橋期の取り組みに明確に位置付け、より効果的に生かせるよう共通認識を図った。

- ・リーフレットのブラッシュアップ

昨年度作成したリーフレットの内容をさらに深化させ、園と学校の共通理解を促進するツールとして検討・作成した。

- ・今後について

リーフレットの活用を進めるとともに、園・小中学校への周知方法の工夫し、校区全体で継続的な連携強化につなげていく。そのため、市としての方向性を、より明確にしていく。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：静岡県函南町

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

令和5年度から6年度にかけ、架け橋期の教育を接続・連携の核とするため教育委員会としての取組と位置づけ、方向性や体制を校長会、園長会、町内の園校の主幹・教務主任研修会で説明した。令和7年度には架け橋期のコーディネーターを任用して架け橋プログラムに取り組み、架け橋期の教育の必要性や文科省、先進地域の動向等を会議や園訪問等で伝えた。園校で架け橋期の教育の意識に温度差があることが課題である。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・ 接続研究推進会議の開催（4回）
- ・ 幼児教育アドバイザー、架け橋期のコーディネーターによる園校訪問
- ・ 幼児教育センター情報誌の発行・・・ホームページにあげ、架け橋期の取組を広く配信
- ・ 架け橋プログラムの手引書「かなみ つながるブック」の作成、発行

【取組内容の具体的な事例】

＜接続研究推進会議の様子＞

会議の2回目では指導講師である東海大学准教授寶來生志子氏に「みんなで伴走し、育てよう！函南町の子どもたち～架け橋期の教育を考える～」と題し講演をしていただき、園校の先生が相互理解を図るための研修をした。会議の3回目では、寶來先生から頂いた宿題「生き生きとした子どもの姿があらわれた写真」を用いて、小学校区グループで意見交換をした。参加者一人一人が用意した写真を基に、保育者・小中の先生方のかかわり、言葉掛け、そこに向かうまでの手立てなどについて話し合うことで、「園と学校の共通点」を見いだすことができた。子どもの「やりたい」の声を拾い、それを実践するために、子どもが活動しやすい環境を設定するという点を令和8年度に計画している「つながるミーティング」でさらに深めていきたい。



＜架け橋期のコーディネーターの園訪問の様子＞

年度始めに架け橋期のコーディネーターがA保育園を訪問し、架け橋プログラムについての理解を深める園内研修を行った。研修後は、「理解できた」の割合が28%から92%となった。また、架け橋期の接続を進める上で園と小学校が互いに共通理解を図るためにも、「園の保育を見ていただきたい」、「小学校の先生の思いや考えを聞いてみたい」「小学校の先生と交流する機会がほしい」という声が多くあった。それを受け、後日小学校の先生が保育参観し、「園の先生の子どもの考えを引き出す支援」「小学校就学を意識した支援」等の意見交流が行われた。令和8年度も多くの園校の公開保育や公開授業等に参加し、架け橋プログラムを進めていきたい。



＜同じ小学校に入学する複数園同士の交流の様子＞

町内の小学校に入学する複数の園の園児たちが、入学後に人間関係づくりがスムーズになるよう、ドッジボールによる交流会をB小学校のグラウンドを借りて行った。各園とも白熱した試合が展開され、予想以上に交流が深まった。

また小学校の中休みの時間と重なり、グラウンドへ出てきた多くの小学生が応援していた。試合後には、校舎内や、授業の様子を見学し、園児たちは1年生になることへの期待に胸膨らませた。

